

新基地建設反対名護共同センターニュース

私たちの未来に戦争や基地、核はいらない

南部戦跡巡りも

民青のグループは前日、ひめゆりの塔や轟ガマなど南部戦跡も視察しました。戦争状態にあるウクライナの青年や子どもたちにも思いを馳せて「平和の大切さ」をかみしめたようです。



28日、キャンプ・シュワブゲート前で座り込む人の平均年齢が一気に若返りました。首都圏の高校生中心の民主青年同盟（民青）のグループ11人と、大阪から母親と一緒に未就学や小学生の子どもたちも駆けつけたからです。民青の女高生は「ウクライナのこともあり、こういう時だからこそ平和を守りたいと思って沖縄にきました。座り込みの現場は少し怖かったです。同じ日本でこのように平和のために毎日闘っていることは知りませんでした。シヨックです。私たちの未来に戦争や基地、核兵器は無くなってほしい」と話していました。

若い世代「平和を守りたい」とゲート前へ

ロシアは侵略行為をやめ直ちに停戦を！ ヘリ基地反対協が呼びかけ 名護市で集会とデモ



集会後、中心街をひんびんガジュマルまでデモ行進し市民にアピール。店主や客が手を振って激励していました。

ヘリ基地反対協議会の呼びかけで25日、名護市内で「ロシアの無差別攻撃を許すな！侵略行為をやめ直ちに停戦を 名護市民集会」を開き、市民約60人が参加しました。反対協の村善幸共同代表（名護市議）が主催者あいさつし、市議や市民がリレートークを行いました。共産党の吉居俊平市議（写真左）が「沖縄戦を体験した沖縄と戦争被爆国の日本からこそ戦争反対、核兵器使用は絶対許さない、の声を大きくしていきましょう」と訴えました。



ゲート前や集団申告でウクライナ国民と連帯

日本母親大会が「辺野古」にカンパ

「日本母親大会 in 沖縄」が昨年11月13日、オンラインで1万2000人超の参加で開催されました。同実行委員会は全国の参加者にカンパを呼びかけ多くのカンパが寄せられました。実行委員会はその一部を25日、沖縄県母親連絡会波平文子事務局長を通じてヘリ基地反対協議会、名護共同センターの代表に手渡しました。ヘリ基地反対協の仲本興真事務局長と共同センターの具志堅徹共同代表は「現場のたたかいへ大きな激励になります。心から感謝します」と話しました。



重税反対集会で黙とう

名護民商などが25日、重税反対第2次北部集会と集団申告を120人余の参加で開催。ロシアの侵略で犠牲となったウクライナ国民を悼み1分間の黙とうを捧げました（写真右）。ウクライナ国民への支援カンパが呼び掛けられ第1次との合計で20万円余寄せられ、ユニセフ等に届けられます。



ゲート前で24日、県内各地島ぐるみから50人ほどが座り込み。「オール沖縄会議」の糸数慶子共同代表・前参院議員も（左写真右端）参加しました。糸数氏は、「ロシアの侵略をやめさせるために日本も非軍事での支援と国際世論を高めることが重要。辺野古新基地建設を許さない、この現場で県民が頑張ることが平和をめざす国際連帯を広げると訴えました。」

カンパを渡す波平さん（右端）と左へ具志堅氏、仲本氏ら

